



見すごすな エスオーエス 幼い子どもの SOS

11月は児童虐待防止推進月間です

全国的に、児童虐待に関する相談件数は依然として増加しています。

子どもの生命が奪われる重大な事件も、後を絶ちません。

児童虐待の問題は、社会全体で早急に解決すべき重要な課題です。

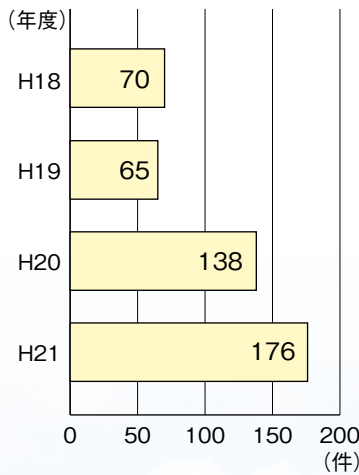
子を持つ親はもちろん、地域社会の一員として、

すべての人が、この問題について考えることが必要です。

知ってほしい 子育てを取り巻く環境

田原市における平成21年度の児童相談（児童に関するさまざまな問題についての相談）は176件で、そのうち児童虐待に関する新規の相談・通告件数は4件7人でした。内訳は、「心理的虐待」が1件2人、その他（親の病気により養育困難など）が3件5人となっています。児童相談の件数は、田原市においても年々増加しています。

田原市の児童相談件数



虐待が与える 子どもたちへの影響

虐待は、子どもの心と身体に深刻な影響を与えます。**発育・発達の遅れなどの身体症状、情緒不安定、感情抑制、強い攻撃性などの精神症状**が表れることがあります。

他人とのコミュニケーションがうまくとれず、さまざまな問題行動を引き起こすこともあります。また、成長するにつれて、

極度の自己嫌悪や自殺願望、アルコールや薬物依存に結びついたり、次の世代に引き継がれたりすることもあります。

子育ての「つらさ」を 「虐待」にしないために

子どもへの虐待は、虐待をしてしまう側の側に、**子育ての悩み、周囲からの孤立、家庭不和、経済的な問題、虐待を受けて育つ**など、さまざまな事情があり、家庭全体が援助を必要としている場合があります。

周囲から、親だけへ一方的な非難を浴びせてしまうと、かえって家庭を孤立させ、問題を悪化させることがあります。そうした事情を想定しながら、私たちは地域全体で子どもを守っていかなければなりません。

虐待の芽を知らせる SOSのサイン

子どもや親が発信するSOSのサインをキャッチすることは、児童虐待の早期発見や予防につながります。次のページに示した「たすけて（SOS）」のサインが、すべて虐待によるものと決めつけることはできませんが、普段の生活から見えて「おかしいな」と感じるがあった場合は、相談機関にご連絡ください。